



「コクリコ坂から」に出てくるアマチュア無線クラブについて

■はじめに

平成 23 年 7 月公開のジブリアニメーション「コクリコ坂から」にはアマチュア無線クラブがワンシーンでできます。この映画は 1963 年（昭和 38 年）の横浜を舞台として描かれています。そこで歴史ある横浜電子工作連絡会にも関係すると考え報告します（ネタバレなし）。先輩無線家 OM 皆様により、より深い時代考証、こんな時代だったよとお教えいただければ幸いです。

■映画の中のアマチュア無線

- ・「アマチュア無線同好会」が文化系クラブの一つとして出てくる。ストーリーには大きく関係なし。
- ・部室棟である洋館、“カルチェラタン”の屋根の上には竹竿で組んだアンテナが立っている。アンテナの形式は HF ハイバンドの八木アンテナ一本、クロスエレメントのもの一本。ローテータは無し。※4
- ・放課後に無線通信を行っている。海外 DX からコールバックがあったのか、興奮しながら高校のクラブ局であることを英語で送信している。部員は 3 名。
- ・室内ではほんのりと機器のダイヤルやメーターが灯った無線機が積みあがり、ケーブルが這いまわっている。ST 管？の載ったセットが部室の前に転がっている。
- ・ガリ版謄写の学内報“週報カルチェラタン”では無線部が芬蘭（Finland）と DX 通信に成功したことが記事になっている。クラブ局のコールサインは不明。

■昭和 38 年のアマチュア無線クラブと時代考証

- ・昭和 34 年に初めて電話級、電信級国家試験実施、社団法人日本アマチュア無線連盟が設立される。
- ・昭和 35 年に最初のクラブ局が認可（JA1YAA 通信博物館）。

⇒高校に昭和 38 年クラブ局が開局しているということは、免許手続き含めよほど詳しい学生、顧問や OB がいたと思われる。※1

- ・昭和 36 年電話級、電信級に 21,28MHz の運用が認められる。また TRIO から TX-88A 送信機/9R59D 受信機などが発売される。※2

⇒当時のクラブ局は最新式ならばこれらのリグ、または少し前の 9R-42 などを使っていたか、807 等の自作機の可能性がある。AM モードが主流であり当然 SSB はまだない。

- ・太陽活動からするとサイクル 19 が 1965 年にボトムを迎える前である。

⇒Phone での DX 通信は難易度が高かったと思われる。春先で電波伝搬コンディションが良かったのかもしれない。ちなみに黒点数は映画の中では天文部が観測していた。※3



当時の最新ラインナップ TX-88A/9R-59

・昭和 38 年のアマチュア無線局数は 30000 局、無線従事者数 50000 人。

⇒アマチュア無線局が増加する夢の大きい時代であった。

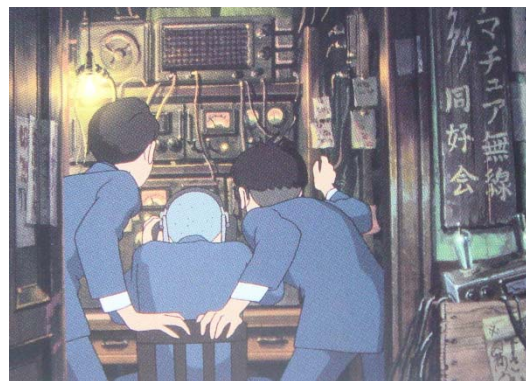
■まとめ

インターネットも携帯電話も無い時代、アマチュア無線の人气が特に高かったのは、世界の人々と何かの方法で通じたい、何かを伝えたい、という本質的な要求があったからではないでしょうか。横浜を舞台にした素敵な映画とともにまたアマチュア無線にも魅力が出てくると思います。

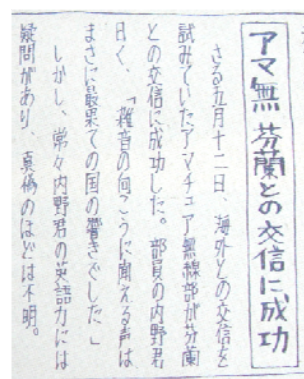
（参考文献）日本アマチュア無線外史 電波実験社、コクリコ坂からビジュアルガイド 角川書店、9R-59 と TX-88A 物語 CQ 出版



アンテナ、部室のあるカルチェラタン



アマチュア無線を行っている部員



成果を学内報に掲載

（8月6日ミーティングにおける追記）※1 工作会のメンバーには実際に横浜の高校でS38年にクラブ局を開設された方がいた！校長先生に直接交渉し部室と無線機を獲得された。 ※2 受信機は自作シングルスーパー、送信はTVIで深夜電波を出していた。無線機の周波数変動は大きかった。 ※3 当時10WとGPを用い、深夜の21MHzでアフリカ、ヨーロッパとは交信できた。フィンランドは大圏距離で日本に近く妥当な交信相手。 ※4 竹竿クロスアンテナを8月のミーティングに持ってきた方がいた！映画の中の横浜無線少年たちは横浜電子工作連絡会に今もいます。